# 令和６年度自己評価・学校関係者評価公表シート

２０２５年４月１日

学校法人聖母学園　観音寺聖母幼稚園

園 長　尾 﨑 美 香

1　本園の教育目標

○ 神様からのあたたかい愛を感じながら、人とかかわるなかで、思いやりや感謝する心を育む。
○ 集団生活をとおして、将来生きる力の基礎となる豊かな人間性を培う。

2　本年度、重点的に取り組む目標・計画

○ 子育て支援の充実をはかり、地域に拓けた愛される園となるよう、園全体で取り組む。
○ 少人数ならではの丁寧な保育、異年齢保育を充実させ、幼児の豊かな人間関係を築いていく。
○ 教員各自がチームとしての意識を持ち、連携し、主体的に楽しみながら、保育を充実させていく。
○ 各研修に参加し、園内で共有し、学びの機会を増やし、園全体の保育の質の向上をはかる。
○ 子どもたちの取り巻く社会の変化を理解し、一人ひとりの保護者に寄り添いながら支援を図る。

3　評価項目の達成及び取り組み状況

| 評価項目 | 結果 | 取　組　状　況 |
|---|---|---|
| Ⅰ　保育の計画性 | A | ① 園児数に応じて少人数クラスに編成し、丁寧な保育を計画していった。<br>② チーム保育として柔軟に職員配置し、個別の支援体制・教育補助体制を整え、臨機応変に幼児の個別対応に努めた。 |
| Ⅱ　保育の在り方 | A | ① 異年齢の交流を深められるように環境を設定したことにより、学年を超えて幼児のかかわりが広がっていった。<br>② 運動会や発表会などの大きな園行事については、園全体でアイディアを出し合い、入念に計画を練り、少人数に応じた新しい内容となった。 |
| Ⅲ　教師としての資質・向上 | A | ① 行事ごとに園内で反省と課題を出し合うとともに、保護者からの意見もアンケートメールで回収し、次年度の改善に向けて検討した。 |
| Ⅳ　保護者対応 | A | ① PTA から保護者会に名称を変更。例年のバザー自体の在り方を見直し、保護者会による各学年別の親子ふれあい会としてお楽しみ会を催した。結果、保護者の負担の軽減が実現し、笑顔あふれる親子の素敵な思い出づくりになった。<br>② 保護者がより意見を出しやすい環境を工夫。意見箱やアンケートメールの活用によりたくさんのご意見を回収できた。 |
| Ⅴ　地域の自然や社会とのかかわり | A | ① 季節ごとの園外保育を多く取り入れた。幼児の自然体験を大切にし、自然や人とのかかわりがたくさんできた。フットワークの軽い行動力を意識しつつ、事前準備（下見・打合せ・計画案）は念入りに行い、安全面は特に徹底した。<br>② 地域とのかかわりとして、自治会の役員さんと交流の場が増えた。ともに避難訓練を行ったり、自治会の餅つき大会や、書初めなどの体験をさせてもらえたりした。園にとっても貴重な体験となった。<br>③ 子育て支援の日を月に２～３回計画した。親子登園の日を設けたことにより、満３歳児がスムーズに園生活に慣れることができた。<br>④ 幼小保連携では、小学校と保育園と積極的に連絡をとり、行事に招くなどして、交流の場を取った。 |
| Ⅴ　研修と研究 | A | ① 教員が研修に積極的に学びの場へ参加、園内で共有し、保育に活かすように努め、成果を出すことができた。<br>② 中堅教員研修会では、園全体の取り組みとして、異年齢保育の充実を図った。学年を超えて交流が深まり、保育内容や幼児理解へ繋がり、大きな成果となった。<br>③ チャプレン（神父）による祈りや講話を週一回計画し、場を持ったことにより、カトリック幼稚園の教職員として新たに自覚が芽生えた。特にこころをたいせつにする教育を全教員が再認識した。 |

4　総合的な評価結果

| 評価 | 理 由 |
|---|---|
| A | ・ 幼児を取り巻く少子化の背景を理解し、教育内容を見直し、より良いものを展開していくことができた。<br>・ 新しいことにチャレンジすることにより、園全体がいきいきと活性化された。<br>・ 教員が楽しみながら保育を計画して、子どもたちのために質の良い保育に繋がった。<br>・ 地域や近隣の小学校、保育園との交流が具体的に実現化した。 |

評価（A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果がなかった）

5　今後取り組む課題

| | 課 題 | 具体的な取り組み方法 |
|---|---|---|
| 1 | 教員の資質向上 | ① 研修を深め、教育要領をより丁寧に理解し、研究し、10 の姿を意識し、保育の計画に活かしていくように努める。<br>② 異年齢保育や満 3 歳児保育について、年間で具体的に計画し、幼児のより豊かな人間関係を構築していけるような環境づくりをし、豊かな成長を促す。<br>③ 全体的な指導計画、全学年の幼児について、遊びや保育内容の展開ができるように教員の体制を整える。 |
| 2 | 子育て支援 | ① 市と情報共有し、園の開園日数や、保育時間について検討し、預かり保育の充実を図り、家庭支援につなげる。<br>② 「誰でも通園制度」にむけて具体的に計画し、未就園児の親子登園日の日数を増やしたり、２歳児保育についても計画を進めていく。 |
| 3 | 防災管理 | ① 南海トラフ地震に備えた避難訓練を地域の人と連携して行い、具体的に何ができるか、防災計画を見直すとともに、備蓄品を備え、自主防災意識を高める。 |

6　学校関係者評価委員会の評価

① 園外保育で子どもたちが自然と触れ合う大切な場である。園の特徴として続け深めてほしい。
② 少人数でのクラス編成、園行事の見直し、保護者会の改変、地域との連携等、教員一人ひとりがアイディアを出し、新しい試みが見られ、園全体が活性化された１年となった。
③ 保護者からの意見を多く取り入れたことが、改善の参考となり、成果を上げたと思われる。
④ キリスト教精神に則り、経営、運営の努力をされていると評価する。
⑤ ＢＣＰ（事業継続計画）の策定や研修、訓練、定期的な見直しを求められている。「園児の安全を確保すること」を第一に、南海トラフ等の自然災害、パンデミック等による緊急事態対応について、関係部署と連携、指導を受け、ＢＣＰの研修会を開催することが大切である。